

令和7年度 研究推進計画

廿日市市立佐方小学校

1 学校教育目標

「元気に本気で根気よく 学びつながる 佐方っ子」

2 研究主題

自ら学び 豊かに表現する児童の育成 ～子どもが主役の算数科の授業づくり～

3 主題設定の理由

現代は、あらゆることが目まぐるしく変化し、不確実・不透明性が高まり、将来の予測が困難な時代と言われている。このような時代においては、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出す力が必要とされている。また、自分のよさを知り、多様な他者と協働しながら問題解決を図り、新たに何かを創り出すことも求められている。

本校では、令和3年度から4年間、国語科における授業づくりについて研究を進めてきた。昨年度は、研究主題を「思考力・判断力・表現力を高め、学びを深める児童の育成～子どもの思考に沿った国語の授業づくり～」とし、国語科「読むこと」の物語文の読解において、教材の特質から導き出した指導内容・方法の工夫を取り入れ、児童が主体的に思考する学習展開や児童の興味関心を喚起させる言語活動を取り入れた授業改善を行った。その結果として、特に思考力・判断力・表現力と国語科の学習への意欲・態度については県平均や全国平均を上回り、一定の成果を出すことができた。

令和6年度4月に実施した全国学力・学習定着状況調査の国語科の結果は下記の通りである。（％）

分類		区分	佐方小	広島県 (公立)	全国 (公立)
		正答率	73	69	67.7
学習 指導 要領 の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.8	65.9	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	89.1	88.0	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.4	76.3	74.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	62.7	61.3	59.8
		B 書くこと	73.4	70.5	68.4
		C 読むこと	73.2	72.6	70.7
評価の観点		知識・技能	76.8	71.3	69.8
		思考・判断・表現	69.3	67.8	66.0
		主体的に学習に取り組む態度			
問題形式		選択式	71.3	71.2	69.9
		短答式	76.6	61.4	59.7
		記述式	74.5	67.8	64.6

同調査の国語科に関わる児童質問紙調査の結果は下記の通りである。

「国語の勉強は大切だと思いますか。」 (％)

	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
本校	81.1	17.9	0.0	0.0
広島県	68.0	27.0	3.4	1.6
全国	67.5	27.0	3.6	1.9

「国語の授業の内容はよく分かりますか。」 (％)

	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
本校	43.2	49.5	5.3	1.1
広島県	38.9	47.4	10.8	2.7
全国	39.2	47.1	10.8	2.8

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」 (％)

	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
本校	73.7	22.1	3.2	0.0
広島県	63.4	30.5	4.5	1.5
全国	61.8	31.4	4.9	1.8

また、下記の表は令和6年度1月に行った廿日市市学力定着状況調査の全学年の国語科の結果である。知識・技能においては、ほぼ全国値並みであるが、思考力・判断力・表現力においては、ほぼ全学年で全国値を3ポイント程度上回ることができた。

【①②③の上段は、校内正答率、下段は全国値を表している。(％)】

国語	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
本校平均	75.9	77.2	63.9	71.1	74.0	67.6
全国平均	74.0	75.9	62.3	69.9	71.9	69.9
①知識・技能	81.0 (80.4)	85.3 (86.4)	65.2 (65.8)	69.3 (69.3)	75.0 (72.5)	61.2 (63.6)
②思考力・判断 力・表現力	72.4 (69.7)	67.2 (64.8)	60.6 (57.3)	69.6 (66.0)	72.4 (70.3)	72.0 (74.6)
③学びに向かう 態度	75.2 (73.1)	63.1 (58.4)	54.1 (58.1)	68.7 (65.0)	69.4 (66.7)	63.4 (68.8)

各種の学力調査の結果から、これまでの国語科を中心とした教育研究の成果が上がり、知識・技能の定着、思考力・表現力・判断力の向上が見られること、また多くの児童が国語学習の意義を実感し、理解を深め意欲的に学んでいることが分かった。

授業づくりにおいては、思考力・表現力・判断力の育成をめざし、児童の実態をもとに指導者が各学年において協働的に教材分析を行ってきた。その結果として、教材研究に深まりが見られ、国語科のみならず他教科等においても思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫が見られつつある。

一方で、令和6年度の全国学力状況調査算数科においては、平均正答率は全国・県・市平均とほぼ同程度であった。「思考力・判断力・表現力」の観点では県平均を下回っており、筋道を立てて考え、様々な性質を見出し、その性質を活用したり、関係性に着目して考察したりすることに課題があることがわかった。令和6年度に行った全国学力・学習状況調査における算数科の結果は以下の通りである。

(%)

算数(6年生)	全体	知・技	思・判・表	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
本校平均	64	73.4	51.4	65.6	65.5	51.8	64.4
県平均	64	73.0	52.3	66.6	67.5	50.8	63.0
全国平均	63.4	72.8	51.4	66.0	66.3	51.7	61.8

そこで今年度は、研究主題を「自ら学び 豊かに表現する児童の育成」とし、副題を「子どもが主役の算数科の授業づくり」とした。児童自身が主体的に自分の学びを形づくり、学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力を高めるために、授業において児童が自分事として課題を捉え、自ら計画を立て、学び方を選び学習を進める等の自己選択・自己決定・自己調整していく学習の在り方について研究を進めていきたい。算数科を研究教科の中心に据え、児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を設定し、(学習の個性化)、児童一人の特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の工夫(指導の個別化)を取り入れていく。その過程で、タブレット端末等を効果的に活用して、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から協力し合ったりしながら考えを広げ深める協働的な学びの場を工夫していくことで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていきたい。その際、指導者は、振り返り等から個の学びを丁寧に見取り、その学びの姿を価値づけていきたい。このような取り組みを組織的・計画的・継続的に行っていくことで、「自ら学び 豊かに表現する児童の育成」を目指したい。

4 研究の仮説

教科の目標とつきたい力を児童と共有し、自己選択・自己決定・自己調整の場と考えを広げ、他者との考えの交流の場を設定することを取り入れながら、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざす授業づくりを行えば、自ら学び表現する児童を育成することができるであろう。

学校教育目標
「元気に本気で根気よく 学びつなげる佐方っ子」

佐方小学校研究主題
自ら考え豊かに表現する児童の育成
～子どもが主役の算数科の授業づくり～

思考力・表現力

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

個別最適な学び

協働的な学び

・自己選択・自己決定
自己調整の場の設定
・振り返りの充実

一体的な充実

・学びの悩みや疑問を表現し、
全体の話題にしていく
・友達の意見に耳を傾ける
・自分の考えを伝える
・考えを比べ、広げ、深める
・クラウド環境等を活用した他者参照

デジタル学習基盤（一人1台端末やクラウド環境）の活用

子どもの思考に沿った教材研究・教材の特質を捉えた指導内容、単元構成の工夫

ユニバーサルデザインや合理的配慮を前提とする
学級経営・授業づくり（焦点化・視覚化・共有化）
算数科の効果的な指導方法

6 研究内容と取組

(1) 子どもの思考に沿った教材研究

- 数学的な見方・考え方を働かせ、算数の学習を生活や学習に活用する数学的活動の工夫
- 既習事項の活用
- ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくり
 - ・個別最適な学びを実現するために（自分で学び進めるための手立て）
単元の中に「自己選択・自己決定・自己調整」の場を設定し、学び方を選択できるようにする。
教材・教具を選択できるようにする。
→何を使って学ぶか(教科書・ノート・ワークシート・デジタルドリル・学習環境等)
 - ・協働的な学びを実現するために（他者のとを考えを交流するための手立て）
学習形態を選択できるようにする。
→誰と学習するか(一人で・ペアと・グループで・集団で・先生と)
自分の考えを表現する方法を選択できるようにする。
→どんな媒体で伝えるか(紙で・ICTで・発表で・クラウド共有で)

(2) 自分の考えをもち、表現するための手立てや支援

- ICTを活用した他者参照の場の設定
- 学年に応じた話し合いの方法(話型等)の提示

(3) 振り返りの充実

- 振り返りの時間を確保する。
- 指導の目的や意図に応じた振り返りの視点を与える。
- さまざまな振り返り方法を取り入れる。(紙媒体・ICT)

7 研究方法

- ・学習規律、研究構想、学習計画を提示し、職員の共通認識を図る。
- ・校内研修で行う授業研究の事前、事後協議をする。
- ・授業で付けたい力、子どもが主役となる授業、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について協議する。
- ・外部講師を招いて、教材研究や授業づくり、ICTの効果的な活用方法について研修する。

8 検証方法

- ① 廿日市市学力定着状況調査【算数科】の「思考力・判断力・表現力」の観点の平均正答率が全国平均を上回る。

② 学びのアンケート(教員)

①	学習指導において、児童生徒一人ひとりの実態に応じて、学習課題や活動を工夫したか。
②	児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したか。
③	児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う。

③ 学びのアンケート(児童)

①	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。
②	授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
③	授業では、学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

- ④ 廿日市市の児童意識調査「学校の授業でパソコンやタブレットなどのＩＣＴ機器をどのくらい使っていますか。」において、「ほぼ毎日使う」と答える児童の割合を７０％以上とする。

→昨年度の同調査（３学年以上対象）の第２期の結果は４１．８％(市平均５８．５％)

9 研究計画表

月	内容	授業者	
4 / 7 月	理論研修Ⅰ 研究推進計画案		
5 / 15 木	理論研修Ⅱ 目指す児童の姿の共有		
5 / 26 ～ 30	UD の視点での支援について (授業参観)	特別支援学級担任	
6 / 23 月	研究授業① 6年生 「円の面積」	西田先生	団体サポート①
7 / 1 火	研究授業② 3年生 「表とグラフ」	田中先生	
7 / 23 火	実践研修① 単元構成等検討		
未定	実践研修② 単元構成・本時案検討 実践研修③ 単元構成・本時案検討		団体サポート② 団体サポート③
8 / 5 火	実践研修③ 本時案検討		
8 /	全国学力・学習状況調査結果分析		
9 / 26 金	研究授業 (3校合同) ③ 1年生 ④ 4年生 ⑤ 5年生 ⑥ 特支	低 坂本先生 中 佐々木先生 高 脇田先生 特支 大家先生	
1 / 23 金	研究授業⑦ 2年生	久保利先生	団体サポート④
2 /	廿日市市学力調査結果分析		
2 / 19 木	理論研修Ⅳ 研究のまとめ 来年度の研究に向けて		団体サポート⑤

7 / 29, 30, 31

8 / 7, 8